



2023年12月、日本政府は、中国による日本産水産物の禁輸を受けて、輸出拡大実行戦略を見直した。水産物の輸出先の裾野拡大を推し進める狙いが背景にある。25年における東南アジア向けホタテの輸出額目標について、タイで24億円、ベトナムで5億円に設定。22年のタイ向けホタテの輸出額は12億円に上っており、農林水産物・食品の品目別輸出額で9位となった。

タイでは、東京電力福島第1原発の多核種除去設備(ALPS)処理水の海洋放出以降、農業協同組合省がサンプルを採取し、原子力庁が放射性物質検査を実施した

中国禁輸受け日本政府

ホタテ輸出、タイに転換

結果、日本から輸入する水産物の安全性が証明されたことも、日本がタイへの輸出を促進する大きな理由だ。

タイ向け輸出額の目標設定に先立ち、日本貿易振興機構(ジェトロ)バンコク事務所は、昨年10月に「タイにおけるホタテ等の新規需要創出事業」の参加者を募集し、年明けには、タイ料理、中華料理など日本食以外の飲食チェーンを対象に、日本産ホタテなどのPRキャンペーンを展開。すでに料理店の中には、ホタテを使った特別メニューを提供している店もある。タイで人気の料理コンテスト番組「IRON CHEF Thailand(料理の鉄人)」で、

ホタテが食材として取り上げられた。日本料理やタイ料理、中華料理の有名シェフが腕を競い合ったが、タイ人に、ホタテの魅力が十分伝わったのではないだろうか。こうした一連の動きを見ると、中国の禁輸政策に対し、日本政府



バンコクのスーパーで売られているホタテ=タイ・バンコク

は国を挙げて、水産物の輸出を促進しようとしている意図がうかがえる。現在、バンコクにある大型ショッピングモールでも日本産冷凍ホタテが1個79円(約320円)で売られている。私が利用する日本料理店では、お寿司2貫が160円(約640円)。決して安くはないが、ホタテファンが徐々に増えていると実感できる。

昨年末から中国人観光客が増えた。タイに訪れる中国人は、中華料理の他に、日本料理やタイ料理を好む傾向がある。食べる機会を失った、ホタテに代表される日本産の水産物をタイで実際に食べてみておいしいと感じ、健康的に問題がないと分かった時、中国による禁輸政策の転換が行われることを期待したい。

(岐阜信用金庫バンコク駐在員事務所長 高橋英孝)